

第5学年 体育科学習指導案

平成25年10月29日(水) 1校時

指導者 教諭 桐原 保

場所 体育館

1 単元名 跳び箱運動

2 単元の目標

【運動への関心・意欲・態度】

- ・跳び箱運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動したり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができる。

【運動についての思考・判断】

- ・自分のめあてに応じた練習の場や段階を選び、工夫して練習することができる。

【運動の技能】

- ・自分にあった技を身につけ、安定した動作で跳び越しができる。

3 視聴覚教材・教育機器を活用する目的

体育の学習では、技能を高めるために「上手にできる」のはなぜかを追究しなければならないが、上手な動きをイメージさせるために、イラストや写真を見せたり、教師や児童の代表が動いて見せたりすることが多い。また、近年では、DVDや動画で分かりやすく動きがイメージできるようになってきている。しかし、自分の動きを自分で知る手段としては、目印を基に部分的に自分で確認したり、誰かに見てもらって言葉で伝えてもらったりすること以外、自分の動きを自分の目で確かめることはなかなかできない。そこで、ビデオカメラとモニターTVを設置して時間差で撮影・再生し、自分の動きを自分で確かめる事ができるようにしたい。そのことで、より効果的に技が上達すること、言葉と動きがうまくつながること、上手にできる喜びを多く味わえることが期待できると考える。

4 使用する視聴覚教材・教育機器

モニターTV ビデオカメラ 学習カード 掲示用シート パソコン

5 単元の指導計画（6時間）

時数	ねらい	主な学習内容
1	○学習のねらい、単元全体の学習の進め方について知ることができる。	1. 学習のねらいや単元全体、1時間ごとの学習の進め方を知る。 2. 試し跳びを行い、自分の実態について把握する。 3. 次の時間のめあてを立てる。
5 (本時 5 /6)	○今できる技が、スムーズに、安定してできる ○もう少しできそうな技のポイントを理解し、挑戦することができる。	1. 準備運動、補助運動をする。 2. 本時の学習内容を確認する。 3. 自分の今できる技の練習をする。 4. 自分で挑戦したい技に取り組む。 5. 本時のふり返りをする。

6 本時の計画（5／6）

（1）ねらい

自分の課題を明確にし、適切な場を選び、工夫して練習することができる。

（2）学習過程

主な活動	形態	教師の支援と留意点	視聴覚教材の活用について
1. 準備運動	全体		
2. あいさつ・学習の流れの確認	全体	・各自のめあてを確認させる。	掲示シート ・児童が自分達の言葉で動きのポイントを書き込んでいく。 学習カード ・自分のめあてや取り組む技を確認する。 パソコン ・動きを動画で見ることで、上手な動きのポイントを理解する。
3. 補助運動	全体	・跳び箱運動につながる、基礎となる動きを練習する。 ・効率よく運動ができるように、場の設定を工夫する。	
4. めあて1の活動	個人	・安定して技ができるポイントを意識させる。	学習シート， 掲示シート ビデオカメラ， モニターTV ・時間差で自分の動きを見ながら、より上手にできるようにする。
5. めあて2の活動	個人	・自分の目指す技や力に応じて、練習の場や方法を選ぶようにさせる。	学習シート， 掲示シート ビデオカメラ， モニターTV ・時間差で自分の動きを見ながら、身につけるポイントを理解する。 パソコン ・動きを動画で見ることで、上手な動きのポイントを理解する。
6. 整理運動	全体		
7. まとめ・ふりかえり	全体	・自分だけでなく、友達の様子にも目を向けさせる。	学習シート ・ふりかえりを記述し、次時への意欲づけを図る。

7 評価

自分の課題を明確にし、適切な場を選び、工夫して練習することができる。（観察・学習カード）